

# 平成23年度専門技術者講習・試験 新規受験者数は1,741名

平成23年度の専門技術者資格取得の講習・試験は、8月下旬から11月上旬にかけて、自家用発電設備専門技術者は全国10会場（札幌、仙台、東京、富山、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、那覇）で計12回、可搬形発電設備専門技術者については同9会場（自家発専門技術者会場から那覇会場を除く。）で計10回実施した。

平成23年度の新規の受験者数は、自家用発電設備専門技術者が昨年度に比べ、23名増加し995名、可搬形発電設備専門技術者については昨年度よりは83名減少し、746名となった。可搬形の受験者数は減少したものの、昨年度が一昨年度に対し約2倍と大幅に増加したことを考慮すると、ここ数年では高い数値で、移動用発電設備の取り扱う上での管理体制の徹底という保安確保の意識が建設業界に浸透している表れと思われる。

平成23年度の受験結果について、11月28日、自家用発電設備専門技術者審査委員会で審査を行った。今後、この審査結果に基づき内発協会長が合否を決定することになる。受験者には12月下旬に合否が通知される予定。

## 会場別の受験者数

受験者数の会場別内訳として、自家用発電設備専門技術者は平成22、23年度とも東京会場が圧倒的に多く全体の1/3以上を占め、大阪会場、名古屋会場及び福岡会場を含めると全体の70%以上となった。受験者数は昨年度に比べ、東京、大阪、札幌、那覇及び富山の5会場では増加したが、他の会場では減少した。

一方、可搬形発電設備専門技術者の受験者数についても、東京会場が全体の約1/3を占め、自家用発電設備専門技術者と同様に4会場で全体の70%以上となった。受験者数は昨年度に比べ、大阪、名古屋、福岡及び仙台的4会場では増加したが、他の会場で

は減少した。なお、那覇会場での可搬形の講習・試験は隔年度実施で、今年度は実施しなかった。

## 業種別の受験者数

専門技術者受験者の業種別内訳として、自家用発電設備専門技術者は平成22、23年度とも電気工事業、保守・修理業及び製造業に従事する者が全体の約70%を占めた。

一方、可搬形発電設備専門技術者も平成22と23年度の内訳はほぼ同じ傾向で、土木工事業、建築設備工事業及び賃貸（リース・レンタル）業、に従事する者が全体の約70%を占めた。

## 年齢別の受験者数

専門技術者受験者の年齢別内訳として、自家用発電設備専門技術者は平成22、23年度とも30代が約半数を占め、次に40代の順となっているが、本年度については昨年度に比べ50代が増え、20代を超える結果となった。

一方、可搬形発電設備専門技術者も自家用発電設備専門技術者同様、平成22、23年度とも30代が最も多く、40代、50代、20代の順となった。

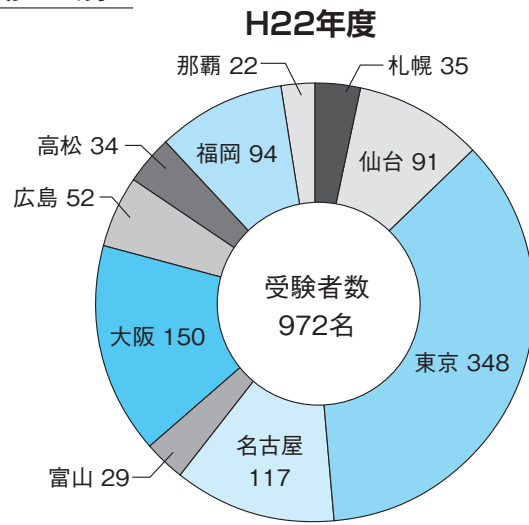
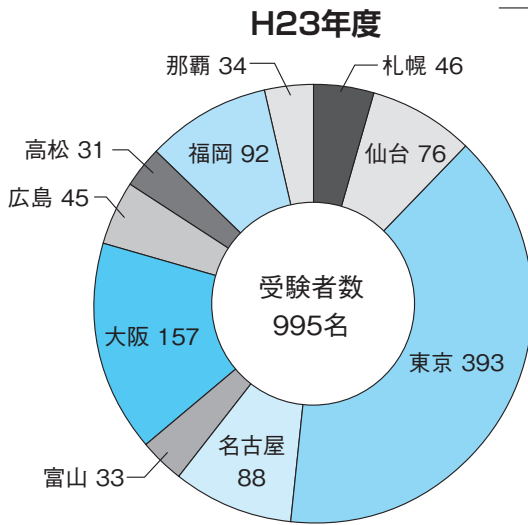
## 科目別42名、業務追加31名

新規受験者の講習・試験と合わせて実施された自家用発電設備専門技術者の科目別受験では42名、同業務区分追加受験では31名がそれぞれ受験した。科目別受験は、昨年度の受験において一部科目が合格点に達しなかったため合格できなかった受験者が、今年度その科目を再度受ける受験方式である。

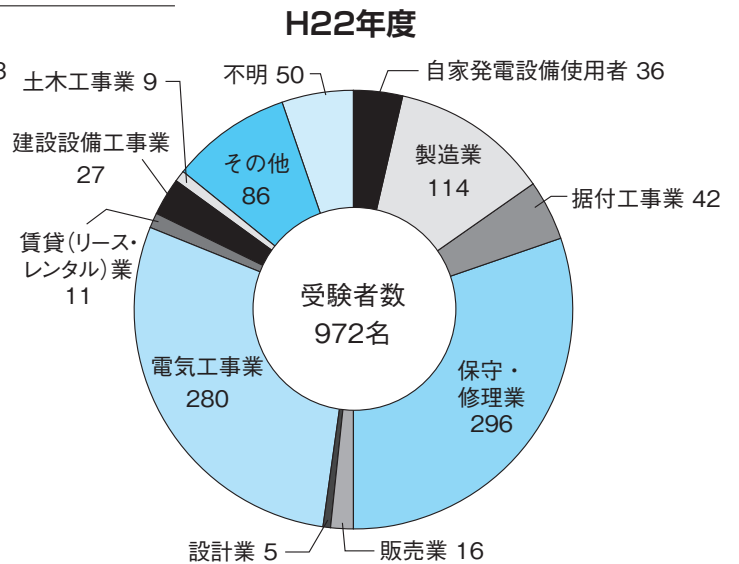
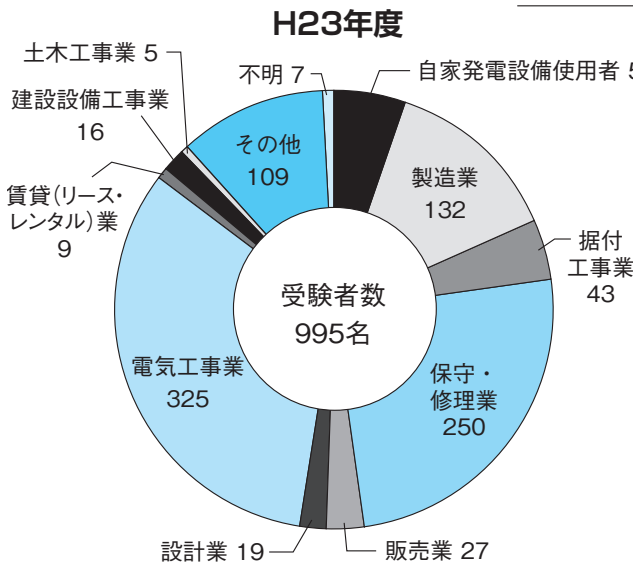
業務区分追加受験は、既に専門技術者の資格を有している者が、取得していない業務区分を追加するために受ける受験方式である。

# 自家用発電設備専門技術者の新規受験者数

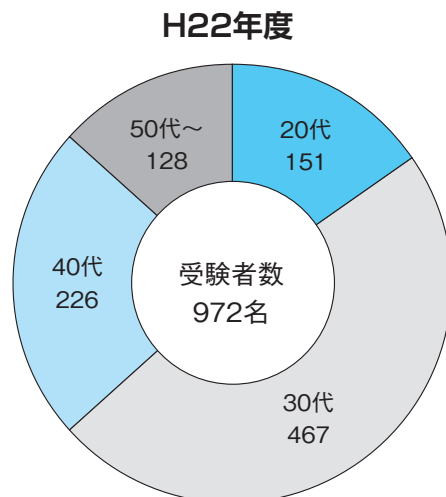
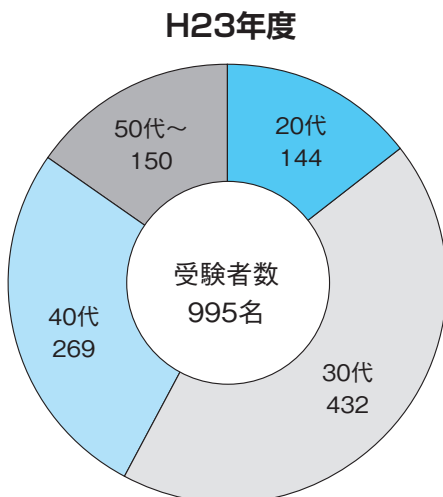
## 1. 会場別



## 2. 業種別

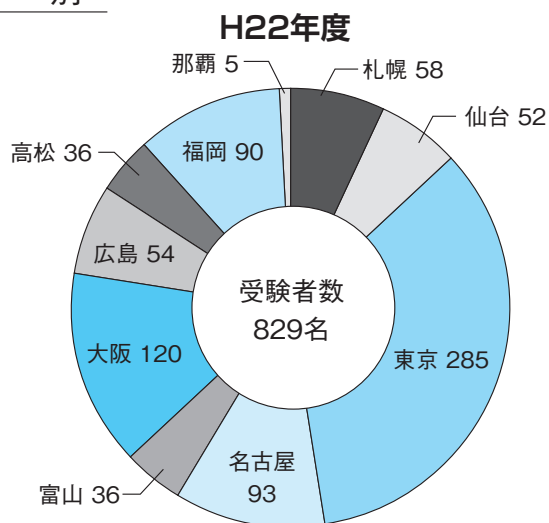
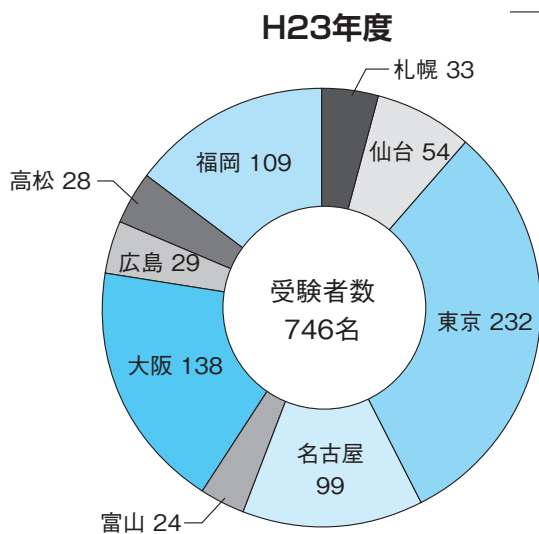


## 3. 年齢別

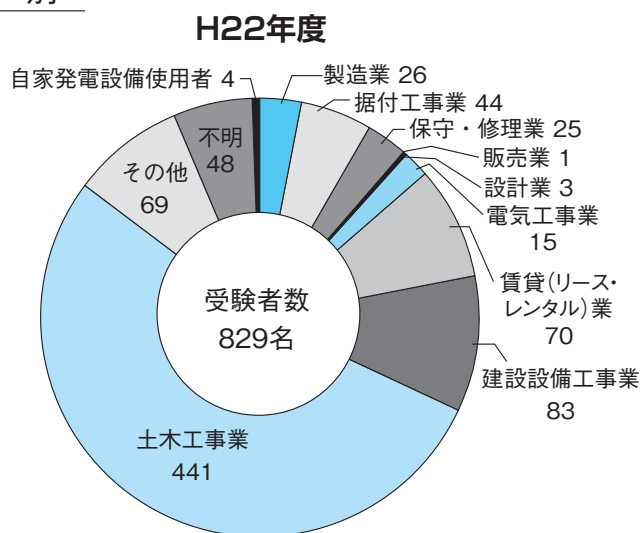
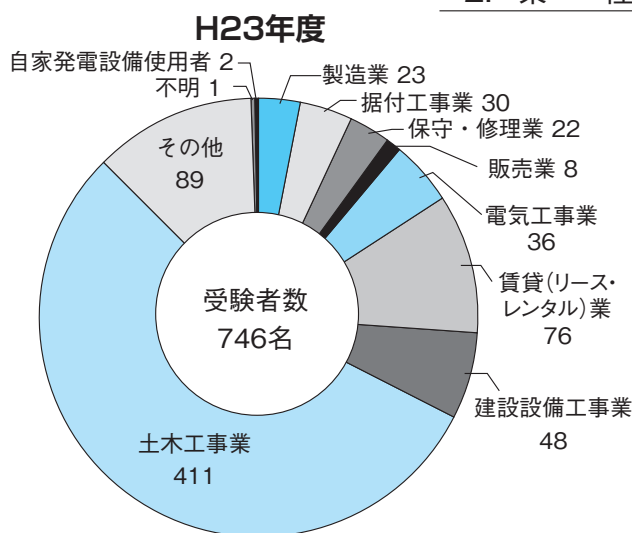


# 可搬形発電設備専門技術者の新規受験者数

## 1. 会場別



## 2. 業種別



## 3. 年齢別

